

自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成
～道徳科の授業改善を通して～

- 1 主題名 誠実な心で A [正直, 誠実]
- 2 教材名 「すんまへんでいい」 (東京書籍 6年)

3 主題設定の理由(授業者の指導観)

(1) ねらいとする道徳的価値について

「特別の教科 道徳」における内容

A 自分自身に関すること

2 [正直, 誠実]

[第5学年及び第6学年]

誠実に、明るい心で生活すること。

偽りなく真面目に真心を込めて、明るい心で楽しく生活することに関する内容項目である。

過ちや失敗は誰にでも起こり得ることである。そのときに、自分の過ちを認め、改めていく素直さが人間の成長にとって大切である。また、何事に対しても真面目に取り組むこと、真心を込めて接したり行動したりすることが大切である。その積み重ねが、誠実に生きていく人間像を形成していくことができるのではないかと考える。

しかし、人間は、過ちや失敗をしたときに、自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとして、うそを言ったり、ごまかしたりすることもある。そのような立ち居振る舞いは一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。他者の信頼を失ってしまったり、良心の呵責を生じてしまったりする。また、ごまかしたことによって上手くいったという心が、誤った方向へと人間形成がなされてしまう恐れがある。また、自分にとって利益になるか不利益になるかという損得感情で行動してしまうことも多い。さらに、よくないことと知りつつも、周囲に流されてしまうこともある。誠実な心が、相手を思いやり、礼節をわきまえ、努力することや、人のために働こうとする心を司るのではないかと考える。そこで、道徳科の学習を通して、人間にとって誠実に生きることの大切さやそのよさについて考えさせたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、教室を綺麗にするために一生懸命働こうとしている。また、新入生のために一生懸命働いたり、最高学年としての意識をもって接しようとしていたりしている。このような行為に至るのは、勤労意欲や思いやり、学校愛の心も勿論だが、誠実な心の表れだともいえる。

学校生活外では、学習塾やスポーツに行く児童が少なく、自由になる時間が多いことから、通信ゲームやスマホに長時間興じてしまっている。親に宿題を問われると、うそをついてごまかすことも多い。叱られないために自分を正当化してしまうこともある。そこで、勉強や生活に真面目に取り組むようになればとの希望をもって、様々な面から指導を継続してきた。そして、自分自身に対する誠実さの心を育てていくことによって、真面目さを前向きに受け止めた生活をするようになり、自己を向上させることや自信にもつながって、自尊感情を高めていくことができると考えた。

そこで、本時において、人間の弱さを見つめながら、自分の誤った行動を見直すことにより、誠実であることのよさについて考えていく営みを通して、誠実に生きていこうとする心を育てることができるのではないかと考えた。

本価値についての指導は、別葉に見るように、各教科等の授業の中で価値に対する指導の機会は少ない。以上のような児童の実態から、本時では道徳教育として、「補うこと」を意図して授業を行う。

(3) 教材について

本教材は、教科書ではA[節度, 節制]の内容項目で掲載されている。しかし、誠実さに対しての定やんの在り方を中心に描かれていることから、A[正直, 誠実]の内容項目で授業を行うこととした。

京都の日本料理屋で丁稚奉公をしている13歳の定やんが、出前のお皿を引き取って市電に乗って戻るときのことだった。読書に夢中になっていたときに市電が大きなカーブを曲がり、座席に置いていたお皿が床に落ちて割れてしまった。高価なお皿を割ってしまった定やんは、なかなか店に戻ることができない。ようやく決心をして、おやじさんに謝り、「弁償する」と言う。するとおやじさんに「弁償すればいいという考えは、まちごうとるで。」と言われ、「すんまへんでいい。」と言われる。おやじさんのその言葉で定やんは失敗から逃れようとしていた自分の不誠実さに気付く。

本教材は、児童が定やんの心の変化に自己を投影して考えることのできる教材であり、そのことを通して、誠実に生きることの意味をより深く理解して、自己を見つめることのできる教材であると考えられる。

そこで本時では、定やんの心の変化に焦点を当てながら、児童が自己を定やんに投影し、誠実さについての考えを深め、誠実に生きようとする心を育てていきたい。

教材分析表

	頁・行	場面の概要	定やんの内面	関連価値	発問例
①	P 1 L 1～4	仕事について	<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命働こう。 ・早く一人前になるぞ。 	C 勤労 A 努力	
②	L 5～10	仕事を頼まれたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・お任せください。 ・市電に乗れるな。 	C 勤労 A 責任	
③	L 11～ P 2 L 3	市電に乗る前	<ul style="list-style-type: none"> ・大好きな読書ができる。 ・毎日忙しいからな。 	A 個性の伸長	
④	L 4～7	市電に乗るとき	<ul style="list-style-type: none"> ・ふろしきをしっかりと抱えないと。 ・落としたら大変。 	C 勤労 A 責任 A 節度	
⑤	L 8～11	本に夢中になっているとき	<ul style="list-style-type: none"> ・席が空いているぞ。 ・隣の席にふろしきを置いて、本を読もう。 	A 節度	
⑥	L 11～19	ふろしきが床に落ちてお皿が割れたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・しまった。 ・何てことをしてしまったんだ。 ・預かった大切なお皿を。 ・どうしよう。怒られる。 ・元に戻らないかなあ。 ・本を読まなければよかった。 ・お皿を持っていればよかった。 ・座席に置いたのが間違いだった。 	A 節度 A 責任 A 誠実	
⑦	P 148 L 1～12	お店の周りをうろろしているとき	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことになった。 ・このまま逃げてしまいたい。 ・とても怒られるのだらうな。 ・おやじさんが怒ると怖いからな。 ・どうしたらよいだらう。 ・何とかならないかな。 ・どう言い訳をしようか。 ・正直に言って謝ろうか。 	A 正直, 誠実 A 善悪の判断 B 謙虚 D よりよく生きる	① 家の前をうろろしているときの定やんは、どのような気持ちだったでしょう。

			<ul style="list-style-type: none"> ・わざとお皿を割ったわけではないし。 ・弁償すれば許してくれるだろう。 		
⑧	L 12～15	決心がついたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・謝るしかない。 ・自分が悪いのだ。 	A 正直	
⑨	L 16～ P 149 L 1	謝ったとき	<ul style="list-style-type: none"> ・許してもらいたい。 ・怒られたくない。 	A 善悪の判断 A 誠実	
⑩	L 2～4	おやじさんの言葉	<p><おやじさんの内面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁償すればよいという考えは間違っている。 ・まず、謝ることが大切。 ・人間に失敗はつきもの。 ・失敗を糧にしてほしい。 ・素直で誠実な人間になってほしい。 ・立派な人間になってほしい。 ・愛する丁稚のために言わなければ。 	A 善悪の判断 A 誠実 B 思いやり C 勤労 D よりよく生きる	
⑪	L 5～7	おやじさんの言葉を聞いて (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・しまった。 ・弁償するといわなければよかった。 	A 誠実 B 謙虚	
⑫	L 8～14	おやじさんの言葉を聞いて (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・素直に、心から謝るべきだった。 ・お金で解決しようとしたことが間違いだった。 ・まず謝ることが大切だった。 ・正直になることが大切。 ・自分のことしか考えていなかった。 ・自分が悪かった。 ・誠実に生きることが大切だ。 ・これからは、よく考えて行動しよう。 	A 正直, 誠実 A 節度 B 寛容 C 勤労 D よりよく生きる	② 「弁償すればいい」という考えは、まちごうとるで」と言われて、定やんはどのようなことを考えたでしょう。(中心発問)

4 研究主題と関連した本時の工夫

(1) 教材提示の工夫

読み聞かせでは、効果的な間を取って読み聞かせることによって、児童がより教材に浸ることができるようにする。台詞のところは臨場感をもって読んだり、文の語尾は声を上げ口調ではなく下げ口調にしたりしながら、教師による「語り聴かせ」によって、児童が主たる登場人物である定やんを自分事として捉え、考えられるようにする。

さらに、BGMを活用して、児童がより教材の物語の世界に浸り、登場人物に自我関与することができるようにする。

中心発問に関わる定やんの台詞では、「すんまへん」の後に間をおかず、「弁償します」と上げ口調で読み、それに続くおやじさんの台詞を厳しい語調で読むことによって、誠実についてより深く考えることができるようにする。

読み聞かせた後は余韻を保ち、児童の教材についての思いを深めさせ、児童が教材に自己を投影して考えられるようにしたい。

このように、児童が教材に浸ることによって、登場人物に自我関与して一人一人が考えていくことができる。教材は児童の心を映し出す鏡である。そして、児童の心の内面を言葉にして表出することによって、協働的な話し合い活動が生まれていくことになることから、教材提示に力を入れたい。【工夫①】

(2) 発問の工夫

本時のねらいに沿って心情を育てるために、中心発問については、おやじさんの言葉を聞いたときの定やんを自分事として考えさせる。

ねらいとする中心発問で児童が自己と対話しながら深く考えることができるようにするために、基本発問にて、失敗してしまったときの心情、どうしたらよいのか考えを張り巡らせているときの心情を取り上げて考えさせる。

児童が発問に対してじっくりと自己内対話しながら自分事として考え、他者理解を伴って、さらに自己内対話を繰り返しながら深く考えていくことができるようにしていきたい。そこで、教材分析表を基に発問を精選し、中心発問と2つの基本発問での発問構成とした。発問を精選し、児童の話し合う時間をしっかりと取ることにより、自分の考えを深められると考えた。物語のよさを味わいながら、他者理解を伴うことによって、多面的、多角的に誠実生き方についての考えを深めたり広げたりしたい。

初めの発問や、次の発問をするときに、場面が変わってしまうので、児童の思考がつかず途切れてしまうことが多いとされる。さらに、児童の思考を途切れさせないために、必要以上に教師が話してしまつて時間を費やしてしまうことも多いとされる。そこで、無駄に時間を消費せず、児童の思考につながりをもたせるために、次の発問へ入るための「つなぎの言葉」を予め用意しておく。【工夫②】

また、本教材の特性から、発問の際に、教師が定やんの様子を動作化することにより、児童がより登場人物に自我関与しながら考えることができるのではないかと考えた。

【工夫③】

発問の後には、すぐに答えさせずに、じっくりと考える時間をとってから意図的指名を行う。また、児童の発言に対し、教師は児童の発言を受け止めながら、心から聴いていきたい。必要な場合には、問い返すことによって、児童の考えを明確に表現させたり深めたりさせていきたい。

第2発問では、定やんが葛藤する場面である。そこで、誠実さと不誠実さを上下に分けて児童の考えを板書し、色違いにして明確に視覚化することによって、中心発問での思考への一助とする。【工夫④】

(3) 展開後段でのワークシートの使用

授業で学んだことや考えたことをもとに、自分自身の生活を振り返って見つめさせたい。自己内対話をしながらワークシートに考えをまとめることによって、考えを整理したり深めたりさせる。考えが思い浮かばない児童には、板書を見ながら助言する。

自己を見つめながら、道徳的価値に対してじっくりと考えさせる時間を取るために、書く活動は展開後段の自分の生活を振り返る場面のみとする。

ワークシートに記述したことを数名の児童に述べてもらい、児童が自分の感じ方と比べて考えることによって、他者理解や自己理解を深めさせたい。その際には、児童のプライバシーも考慮しながら、児童の了承を得ておいてから意図的指名する。特に、本時は「正直、誠実」といった内容項目の特性から、児童の心情について留意しなければならない。意図的指名においては、道徳的価値を多面的・多角的に取り上げられるようにしたい。【工夫⑤】

5 本時の提案

(1) 導入時

- ・ 主題名を提示して本時の学びを明確にしておいてから、導入の発問に入る。(逆もある)
- ・ 価値に対する導入を行う。(教材背景が難しい場合、教材に対する導入の場合もある)

(2) 教材提示(読み聞かせ)時

- ・ 句読点や段落に関わらず、効果的な間をとって読み聞かせたい。
- ・ 台詞のところは臨場感をもって読み聞かせたい。
- ・ 文の語尾は声を上げ口調ではなく下げ口調にして余韻をもたせる。
- ・ BGMが効果的であると考えられる場合、BGMを用いて児童が教材の物語の世界に浸れるようにしたい。(効果的でない場合は、BGMは用いない。)
- ・ 読み聞かせた後は余韻を保つことにより、児童の教材についての思いを深めさせ、児童が教材に自己を投影して考えられるようにしたい。

(3) 発問と話し合い時

- ・発問後は、児童一人一人が自ら考える時間をとりたい。(20秒程度)
- ・次の発問に入る際に、場面を理解しやすいように、予めつなぎの言葉を用意しておく。
- ・展開前段の発問を精選し、中心発問1つと基本発問を2つまでにして、考え話し合う時間をしっかりととりたい。
- ・場面絵を黒板の上に貼って、物語の展開が視覚的に分かりやすいようにしたい。
- ・発問カードを前もって用意しておく。発問全文を書くのではなく、端的に書く。
- ・児童に対して、教師の、「待つ・聴く・受け止める」姿勢を大切にしたい。
- ・児童が話しているときには、教師は板書をせず、児童の発言をしっかりと聴きたい。
- ・発言者は皆の方を向いて話し、聴き手は発言者の顔を見て聴かせたい。
- ・基本発問では、児童の発言を座席表に記録しておき、まとめて板書する。
- ・児童の発言をそのまま板書するのではなく、要点のみを端的に正しい言葉で板書する。
- ・児童の発言は、色チョークを用いて分類したい。人間理解の場面では青チョーク、中心発問につながる場所は黄チョークで囲む。中心発問は、赤チョークで囲んで際立たせる。
- ・児童にとって、話し合いでの考えが分かるように板書をしていきたい。
- ・中心発問を投げかけたときの時間を、授業開始後22分30秒を目安としたい。
- ・中心発問において、主題に迫る反応がでないときは、用意しておいた補助発問をする。
- ・ワークシートに書いたものを発表するのではなく、話し合いを通して思考を広げたり深めたりしていきたい。その時間を多くとるために、書く活動は展開後段のみとする。

(4) 展開後段時

- ・じっくりと考えることができるように、ワークシートに記述する時間を7分間とりたい。
- ・話し合いの時間を充実させるため、ワークシートへの記述は展開後段の1回のみとする。
- ・ワークシートに記述したことを数名の児童に述べてもらい、児童が自分の感じ方と比べて考えることによって、他者理解や自己理解を深めさせたい。
- ・道徳的価値を多面的・多角的に取り上げられるように意図的指名をしていきたい。
- ・児童の了承を得ておいてから意図的指名する。
- ・児童が自分の考えを話す場合には、皆は書くことを止めて、聴くことに集中させたい。
- ・プライバシーに留意しなければならない場合は、児童の記述内容を、児童に代わって教師が匿名で話すことにする。
- ・授業時間が足りない場合には、帰りの会や明日に児童の記述内容を伝えることにする。

(5) 終末時

- ・ねらいに合致したものにする。
- ・児童にとって身近な教師の体験談を語ったり、詩や手紙を読んだりする。
- ・適切な説話が思いつかない場合、子供たちの成長を取り上げる。

- ・BGMを用いると効果的だと考えられる場合、BGMを用いる。
- ・展開後段で児童の内容で満足できた場合、一言で終末を終える。
- ・説話は3分以内に終えたい。(長すぎると逆効果である)

6 本時の指導

(1) ねらい

おやじさんが定やんに掛けた言葉の意味を深く受け止める定やんの心情を考える学習を通して、たとえ失敗しても自分をごまかそうとせず誠実に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

(2) 学習指導過程

	○主な発問 ・児童の心の動き	○指導上の留意点 ☆評価
導 入	1 誠実について考える。 ○ うそをついたりごまかしたりするのは、どのようなときですか。 ・叱られるとき。失敗を隠すとき。 ・面倒なとき。 ・損をしないために。	○予め主題名を板書しておく。 ○「誠実」の意味について押さえる。 ○主題名に基づいて、誠実な心について考えていくことを伝える。 ○教材名を貼ってから読み聞かせる。
展 開 (前段)	2 教材「すんまへんでいい」を読んで話し合う。 ① 家の前をうろうろしているときの定やんは、どのような気持ちだったでしょう。 ・しまった。預かった大切なお皿を。 ・どうしよう。怒られる。 ・何てことをしてしまったんだ。 ・本を読まなければよかった。 ・このまま逃げてしまいたい。 ・とても怒られるのだろうな。 ・おやじさんが怒ると怖いからな。 ・どう、言い訳をしようかな。 ・正直に言って、謝ろうかな。 ・わざとお皿を割ったわけではないし。 ・弁償すれば許してくれるだろう。	○登場人物の絵を見せて紹介し、定やんの気持ちを考えていくことを伝える。 ○BGMを用いて臨場感を醸し出し、読み聞かせ後は余韻を保つ。【工夫①】 ○場面絵と発問カードを貼ってから発問する。つなぎの言葉を精選する。(以下同様)【工夫②】 ○発問の際に、教師の動作化によって、児童がより自分事として考えられるようにする。【工夫③】 ○発問後、考える時間を十分に取る。 ○児童の発言を座席表にメモしていき、全部集約してから分類整理して板書する。 ○発問の際に、教師の動作化によって、児童がより自分事として考えられるようにする。【工夫③】 ○定やんの心の葛藤を2つに分けて板書する。(青・黄のチョークで際立たせる)【工夫④】

<p>展開 (前段)</p>	<p>② 「弁償すればいいという考えは、まちごうとるで」と言われて、定やんはどのようなことを考えたでしょう。 (中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直に、心から謝るべきだった。 ・お金で解決しようとしたことが間違いだった。 ・まず謝ることが大切だった。 ・怒られないためにどうすればよいかばかり考えていた。 ・自分のことばかり考えていた。 ・正直になることが大切だ。 ・誠実に生きることが大切だ。 ・自分のことしか考えていなかった。 ・ぼくのために叱ってくれているんだ。 ・ぼくの将来のために言ってくれているんだ。 	<p>○場面絵②と発問カードを貼ってから発問する。</p> <p>○中心発問へのつながりの言葉として、定やんの台詞は、「すんまへん」の後間をとらずに「弁償します」を上げ口調で直ぐに言ってから、中心発問を行う。</p> <p>○発問後、考える時間を十分にとる。</p> <p>○主題に迫る反応がでないときは補助発問をする。</p> <p>「叱られないために、正直にするのかな。」</p> <p>☆定やんの誠実に生きることに対する考えを類推することを通して、誠実についての道徳的価値の自覚を深めている学習状況を把握する。</p> <p>(発言：板書・座席表)</p>
<p>展開 (後段)</p>	<p>3 これまでの自分の生活を振り返る。</p> <p>○ ごまかしたり、ずるいことをしたりしないで、誠実な心をもって行動できたことには、どのようなことがありますか。自分自身の生活を振り返って考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題をやったとうそをついてしまっていたが、これからは真面目に頑張りたい。 ・人のことを思いやることのできるやさしい人間になりたい。 ・悪いことをしたら、きちんと認めて謝るようにする。 	<p>○展開前段を振り返ってから課題を示す。</p> <p>○ワークシートに記述させる時間を充分に取る。</p> <p>○考えが思い浮かばない児童には、板書を見ながら助言する。</p> <p>○発表してもよいと了承を得られた児童を指名する。その際、多様な考えを取り上げるようにする。【工夫⑤】</p> <p>☆自分との関わりの中で、誠実に生きることについて振り返り、考えを深めている学習状況を把握する。</p> <p>(ワークシート：記述)</p>

終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>○ 小学生のときに、土いじりをしていて石があったので放り投げたら、隣の家のガラスに当たって割れてしまった。いつもお世話になっているその家のおばあさんが出てきて問われたが、うそをついてごまかしてしまった話。</p>	<p>○身近な人の体験を聞くことによって、本時の道徳的価値を深め、明日につなげていこうとする心を育ませる。</p> <p>○BGMを用いて、しっとりとした雰囲気醸し出す。</p> <p>○余韻を残して終える。</p>
----	--	--

(3) 板書計画

<p>ごまかしたり、ずるいことをしたりしないで、誠実な心をもって行動できたこと。 自分自身の生活を振り返って考えてみよう。</p>	<p>場面絵 ②</p>	<p>おやじさんの話を聞いて…</p>	<p>家前でうろうろしているとき…</p>	<p>場面絵 ①</p>	<p>第六回 道徳</p> <p>誠実な心で</p> <p>真心がある 正直</p> <p>うそ ごまかさない</p> <p>人のためにつくす</p> <p>礼儀 一生懸命</p> <p>けんきよ 真面目</p> <p>損得感情 面倒なとき</p> <p>すんまへんでいい</p> <p>うそ ごまかす</p> <p>親にしかられる</p> <p>宿題 ゲーム</p> <p>こわした なくした</p>
	<p>正直にあやまるべきだった まず、あやまることが大切 自分のことしか考えていなかった 正直に 誠実な心が大切</p>		<p>逃げ出したい おこられたくない どう言い訳をしようか べんしょうすればよい</p>	<p>定やん</p>	
			<p>正直に言おうかな わざとじゃない 自分が悪いのだから</p>	<p>定やん の顔</p>	